

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 1日

事業所名 しあわせ駅松本

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			学習室の大・中・小の机の配置、ジョイントマットの活用等工夫して、安全に過ごせるよう配慮している。	
	2 職員の配置数は適切である	6			職員の配置基準を満たし、かつ、児童指導員数も常に確保できている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			フロア全体はほぼ段差無し、トイレや洗面所等の少しの段差には、スロープ設置等で一般的なバリアフリー化がなされているが、敢えて一部残した段差(玄関上がり框の大きな段差やフロアと畳間との境の小さな段差)については、歩行困難児が複数名利用しており、歩行訓練の為に「大・小の段差」を活用し、社会生活において「段差の乗り越え方」の意識づけを行うという目的をもって、対応している。また、多動児も多いため、段差に気を付ける癖がつくように常に意識づけの声掛け・指導をしている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			業務改善のための職員ミーティングを随時行なっているが、今後さらに明確な目標設定と振り返りを強化していく考えである。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			保護者のご意見を積極的に取り入れ、さらに業務改善ができるように努めていく。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			ホームページ、デイだよりや会報で公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6			現在、鋭意改善中である。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			本社にて研修を行っている。 また、本社主導により、毎月テーマを決めて、各事業所においても全職員参加の研修を実施している。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			職員全員でミーティング等で確認・作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			個々人に合わせたアセスメントツールを使用しているが、今後も随時見直しを図っていく。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6			活動プログラムの立案は、全職員の意見を必ず取り入れるようにミーティングを組んでいる。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			全職員の意見を取り入れることで、支援内容がマンネリ化しないように気をつけながら、活動プログラムを作成している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6			支援時間や季節ごとに、利用児童の体力等も勘案して、活動できる内容や活動範囲を考え、支援時間を有効に使えるよう心掛けている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			職員全員で随時ミーティングしながら、児童一人一人の状況・特性を把握できるよう心掛けている。今後さらに、職員間の情報共有を徹底して行なっていく。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打ち合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			毎朝の朝礼にて、職員間で必ず打ち合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について、確認し、対応している。さらに明確な役割分担を行い、前日公休の職員にも、申し送り等を活用して、こまめに情報共有を行い、体制を整えている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打ち合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			毎夕、児童の活動記録を記入しながら、職員間でミーティングをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			日々の記録は必ず行っている。さらにより良い支援に繋げていくために、職員同士の情報共有など徹底して行っていく。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			定期的にモニタリングを行い、職員全員に周知し、デイサービス計画の見直しの是非を皆で判断・検討している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	6			ガイドラインの総則の基本活動(ア・イ・エ)を適宜複数組み合わせさせて支援を行っているが、「ウ:地域交流の機会の提供」については、このコロナ禍の影響により、今年度も提供が難しく、代替活動・室内活動に振り替えることも多かった。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			事前に全職員で該当児の状況についてミーティングし、その結果を持って、基本的に、管理者兼児童発達支援管理責任者が会議出席し、人員に余裕があれば、随時該当児の支援に精通した職員を随行させている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6			学校の行事予定などの情報共有は、ほぼ月単位で実施。行事変更による送迎時間変更等の細かい連絡調整は、送迎担当職員が中心になって適宜実施している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4		2	対象児がいないため、現時点では行っていないが、今後、必要に応じて対応していく。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6			年度初めの定期モニタリング時に、連携を強化するため、他機関担当者に参画を依頼し、情報共有と相互理解に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6			まだ卒業生がいないため、現時点では行っていないが、今後、必要に応じて対応していく。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6			コロナ禍の影響で、今年度もほとんど研修等の機会がなかったが、今後はぜひ全職員が参加できるよう体制を整えていきたい。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			6		コロナ禍の影響で、今年度はほとんどその機会がなかったが、今後はぜひまた児童館での交流にも参加できるよう体制を整えて、活動プログラムに組み込んでいく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			6		これまでは機会が無かったので、参加していなかったが、今後コロナ禍の終息後はぜひ、調べて参加して行きたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			送迎時や保護者の事業所お迎え時に、少し時間を取って、児童の様子等を話す機会を設けて、共通理解を得、家庭と連携出来るよう努めている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている			6		「ペアレントトレーニング」に限定すると、まだ実施していないが、保護者支援の観点から、ペアトレも含めて、将来的には何らかの親支援を実施する方向で検討していく。	
保護者へ	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			契約時に、必ず書面・口頭での説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			保護者からの相談には、随時対応しており、時には専門家の意見を参考にしながら伝え、必要な助言が適切にできるよう、さらに職員間での研修強化も検討中である。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			6		定期的な保護者会等ははまだ未設定。コロナ禍の為、年に1~2度の児童・保護者の交流会を今年も見送っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			苦情は今のところ皆無。苦情や意見に対しては、適切な対応を心がけているが、今後、対応体制の整備について、児童や保護者へ周知し、苦情・意見があった場合は迅速・適切に対応していく。	

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
の 説 明 責 任 等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			・毎月1回「〇月の思い出」という、児童の写真中心の便りを発行し、子供達の日頃の様子や共有したいことをお知らせしている。 ・連絡体制等の発信については、都度「ミニ文書」等の連絡ツールにて発信している。今後も工夫・検討・強化していきたい。	
	35	個人情報に十分注意している	6			・シュレッダー等を活用し、書類の廃棄など行っている。 ・保存書類は窓から見えないよう、保護シートや施錠での管理を行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			連絡帳や都度の「ミニ文書」等の連絡ツールを用いて配慮している。 また、聾児には手話やジェスチャーを活用している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			6		コロナ禍のため、今年度も企画無し。今後、コロナ禍終息後は、招待等での地域交流も企画・検討していこうと考えている。
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			各マニュアルは職員に周知し、資料も保管し、常時閲覧可能としている。今後保護者への周知徹底にも力を入れていく。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			火災・地震の定期的な避難訓練を行っている。救出その他必要な訓練も順次加えていき、さらに改善点を、今後も考えていく。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			本社等にて研修を行っている。 また、本社主導により、毎月テーマを決めて、各事業所においても全職員参加の研修を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6			現在、対象児童はいないが、身体拘束に関する注意事項等はマニュアル化している。 今後、身体拘束を必要とする児童が利用する場合は、作成したマニュアルをもとに、実施・対応していくことを全職員に周知徹底している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			現在該当児はいないが、以前は医師ではなく保護者の指示で対応していた。今後必要のある時には対応していく。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			事例集(ファイル式)を常設し、職員間で共有しており、いつでも閲覧できるようにしている。	